

優秀賞



設計者

長谷川 寛

■ 愛知建築士会、(株)竹中工務店 名古屋支店設計部

観覧場

愛知県豊田市

やわらぎ 森のスタジアム

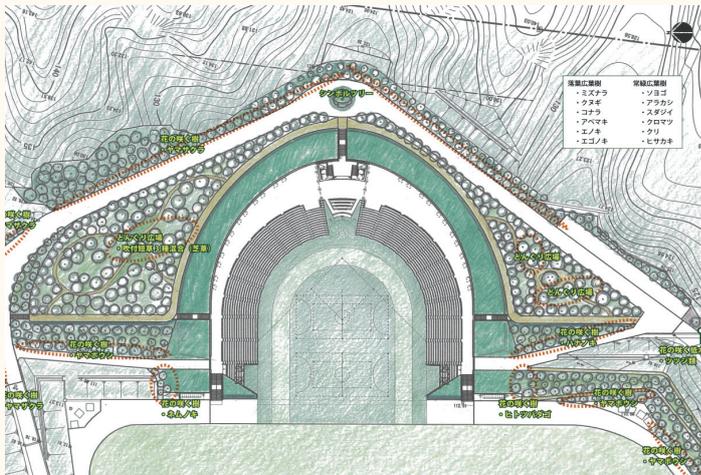
構造・階数 S造 地上1階建て、地下1階	敷地面積 293,371.43㎡	建築面積 12,427㎡	延床面積 12,480㎡	竣工 平成25年9月30日
----------------------------	---------------------	-----------------	-----------------	------------------



A



B



C

選評

29haに及ぶ自然溢れる敷地。その敷地内にある約12mのレベル差を利用し、周辺の自然とランドスケープを生かしながら計画されたスタジアムである。

通常のスタジアムは敷地に配置された建築として、そのランドスケープから垂直に立ち上がるかのように屹立する形態をとるのが通例であり、自然の中に対置された人工形態という表現が普通である。

ところが、このスタジアムはそうした通例とは異なり、レベル差のある段地を欠き取って傾斜席とし、その三方の地盤面に屋根そのものを着地させ、残された一方向には競技トラックが広

がる。建築としての屹立する表現を取らず、屋根が直接地盤面に掛かる構造形式の採用と、屋根と地盤との間を光と風が吹き抜ける様とが相まって、スタジアムにもたらされる開放感には比類がない。

ランドスケープデザインという観点から見ても、高い方の段地からゆるやかに立ち上がる屋根面とその幾何学的な形態は、周辺に広がる緑の自然と穏やかな対照を為し、スタジアムの大きさを忘れさせる魅力を持っている。

ランドスケープと建築との新しい関係の提案と可能性をそこに見ることができ、ここに顕彰する次第である。 (岸 和郎)



D



E



F

- A 光と風を取り入れる膜構造の屋根
- B 既設グラウンドに建設されたスタジアム全景
- C 植樹計画図。周囲はやがて木々に囲まれ、「森のスタジアム」となる
- D グラウンドからスタジアムを見る。スカイラインが山並みの風景を阻害しないよう、屋根はライズを極力抑えている
- E 4,820席のスタジアムは、社員とその家族の福利厚生施設として雨天も使用可能。座席は法面を掘り込んだ傾斜席とし、ボリュームを抑えている
- F 地面に直接屋根がかけられ、ゆるやかに立ち上がる屋根面